

# 前人未到の歩み

## 生産管理へのIT活用

【2】

食品製造業向けの生産

管理システムにも、多彩な機能が見受けられるようになった。しかし「何でもできるが使い物にならない」という、うわさもよく聞く。システムを自作した、あるメーカーに目を転ずると、人の能力と心理に着目してIT化の対象を絞り込み、運用に成功している。要となる生産計画でもコンピュータ任せにせず、人間系管理を追求。人による現場力向上を第一に据え、システムはサポート役に徹している。

◇簡単なところから着手

このメーカーは約30年前、生産管理システムの肝となる資料所要量計

画(MPR)のシステムを自作。品質管理担当だった当時20代の社員がユーザーの要望を現場で捉え、製造指図や原価計算まで含めた現在のシステムに仕上げてきた。きつ

## 機能よりも使い勝手 現場力の向上が第一

は全くの素人。革新の可能性に心躍るが、知識も経験もない。「あなたにもMRPは作れます」という本の副題を見るにつけ、「私には作れませんでしたとは、絶対に言えない」と思っていた。

本の一部が理解できず、何度も調べてみたが、突如のひらめきで視界が開けた。何とかMRPの作り方をまとめ、3ヵ月でプロトタイプ版を完成。

MRPの対象製品が、工程内に複雑な引き当てを伴う仕掛品を持たないものだったため、本格的な構造を考えずに済んだのは幸運だった。現場からの信用が不可欠な生産管理システムでは、初めての導入の成否が、その後の生産管理のあり方を左右する一大事だからだ。

◇計画系では人間系管理も

MRPで出した正味所

### 生産管理システムの要件

かけは同世代の現社長から何気なく渡された『中小企業のMRP』という一冊の本だ。一読し、MRPの構築で当時の会社の業務に革新が起ると感じた。しかし、ITに

理システムでは、初めての導入の成否が、その後の生産管理のあり方を左右する一大事だからだ。

◇計画系では人間系管理も

MRPで出した正味所

ることもある。

この領域ではシステム優先で考

えると、現場の

モチベーション低下や思

考停止を起こし、現場力

の向上を阻むことになり

かねないのだ。

(取材協力)情報シス